警察庁舎等建設に伴う

金剛峯寺遺跡発掘調査概報

１９９３年3月

(財)和歌山県文化財センター

例　　言

1．本書は警察庁舎建設に伴う金剛峯寺遺跡の発掘調査概報である。

2．発掘調査は和歌山県警察本部の委託を受け、和歌山県教育委員会の指導のもと、財団法人和歌山県文化財センターが実施した。

3．調査面積は約160m²で、調査は平成４年11月16日から始め平成４年12月15日に終了した。

4．発掘調査は文化財センター主査冨加見泰彦が担当した。

5．発掘調査にあたり、以下の方々ならびに関係諸機関に御世話になった。

高野山大学文学部教授　堀田 啓一

同 ４回生　八木 健太郎　綾塔 久仁彦　安藤 治　藤井 宏和

宗教法人 金剛峯寺　高野町教育委員会　橋本警察署高野幹部派出所

（敬称略）

目　　次

1. 位置と環境 ……1

2. 調査の成果 ……2

3. ま　と　め ……2

挿図目次

第１図　遺跡位置図

第２図　高野山全山絵図（承応二年）

第３図　遺構全体図

第４図　出土遺物実測図

図版目次

図版１上　調査区全景（東から）

下　苑池遺構（北から）

図版２上　出土陶磁器類

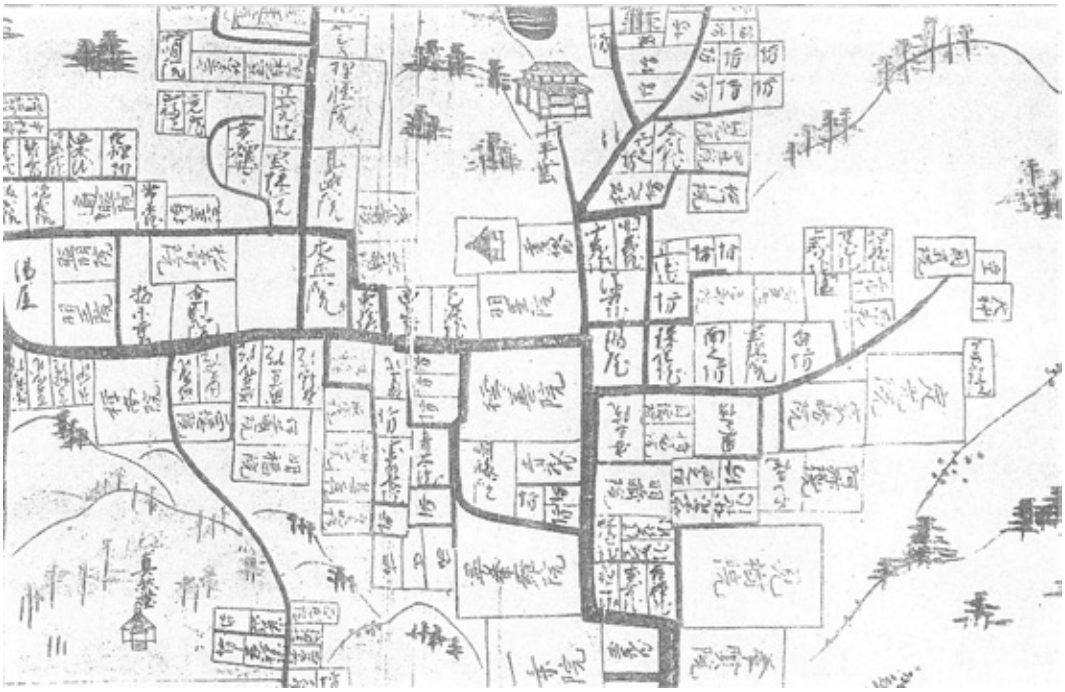
下　出土土師器類

1. 位置と環境

高野山は、標高1000m前後の山々に囲まれた山上盆地で、弘法大師がこの地に弘仁２年（816）金剛峯寺を開基して以来、数多の盛衰を繰返しながら真言密教の聖地として今日にいたっている。

高野山は、古くから主として経塚等の宗教遺跡を対象として調査されており、平安～鎌倉時代を中心とした遺物が豊富に見つかっている。今回の調査地点は、伊都郡高野町高野山639番地で、金剛峯寺の北東に位置し、承応二年（1653）の高野山絵図では、「明星院」等の塔頭子院が描かれている地点で、現在は、橋本警察署高野幹部派出所となっている。

第１図　遺跡位置図



第２図　高野全山絵図（承応２年）　金剛峯寺蔵

2. 調査の成果

（層序） 現在のＧＬから約1.3ｍで、遺構面に達する。遺構面の上には約10～20㎝程のＮ６／（灰）の遺物包含層が存在する。包含層は２層に分層できる。基本的には近世の包含層である。近世以後、何回かの整地が行われ現在に至っている。

現地表面から約90㎝下層には2.5ＹＲ５/６（明赤褐）の焼土による整地土が見られる。土層の観察から、焼土層以後は整地は繰り返されているようであるが、基本的には現在の警察庁舎の建物以外は構築されておらず、現在に至っているようである。

（遺構） 中世の建物の柱穴と近世以降と見られる建物跡、さらに、苑池施設と見られる遺構を検出した。

中世柱穴群 全部で13個の柱穴を検出した。平面形は円形が多く、大きなもので径が約0.7ｍの規模を有している。しかし、それぞれ不揃いである。

建物１ 南北２間以上、東西５間以上の建物である。地山が軟弱なためか柱穴内に沈下を防ぐための礎板あるいは栗石を敷いている。柱穴からは遺物が出土していないため、断言はできないが、方向は苑池と一致しており、同時期併存の遺構と考えられる。

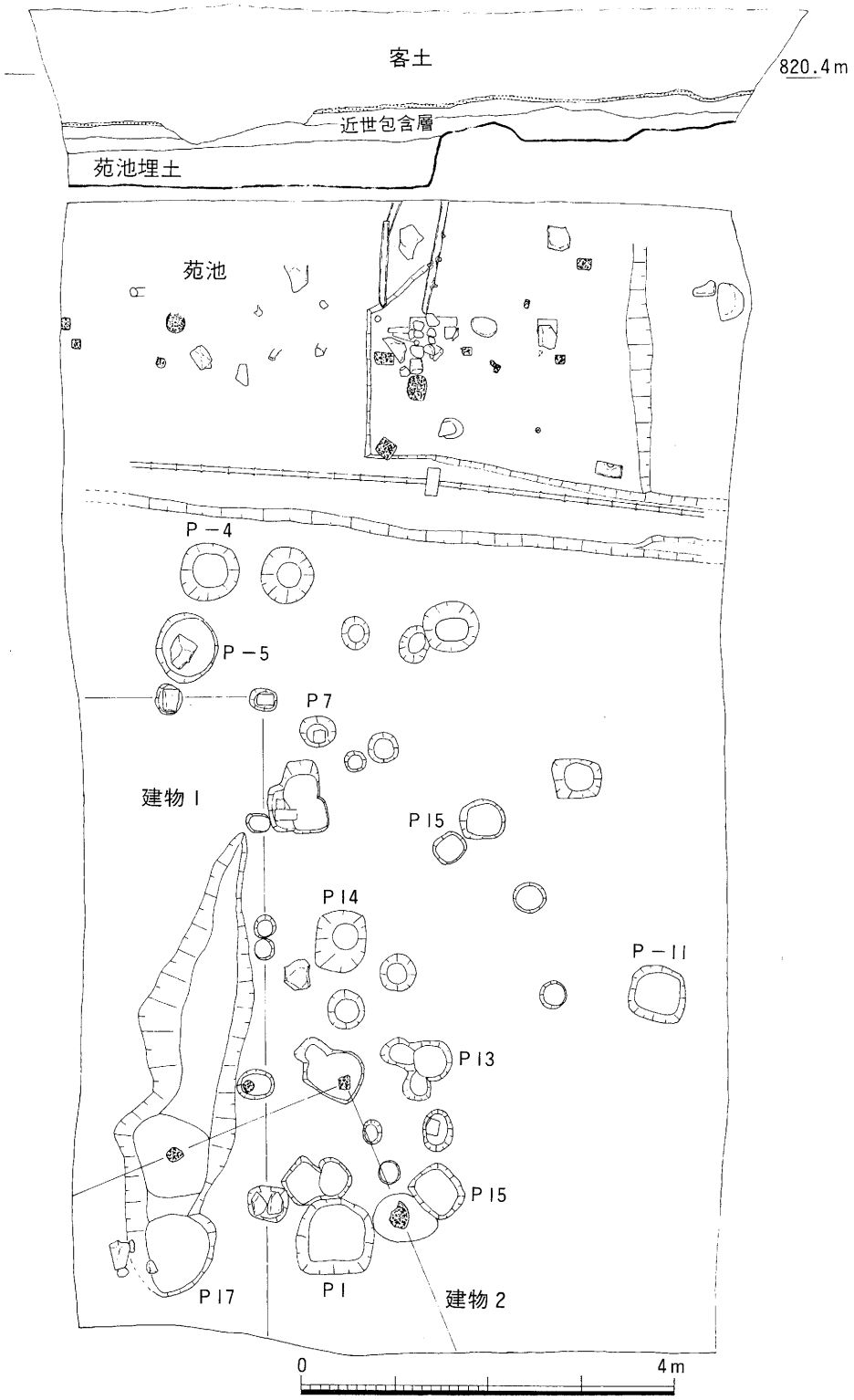
建物２ 南北１間以上、東西１間以上の建物である。建物１と重複する。建物の柱は根元が残っており、炭化した状態で検出した。古絵図に照らしあわせると、位置関係から見て、明治21年の大火によって消失した建物（正覚院）の一部と考えるのが妥当と思われる。

苑池 調査区の西端で検出した。南北2.8ｍ以上、東西3.2ｍ以上で調査区外へと延びる。深さは深いところで約0.5㎝を測る。付属する施設として南北方向に延びる導水管を検出した。導水管は約幅0.9ｍの溝の中に埋設されており、上部を粘土によって巻いているのが確認できた。

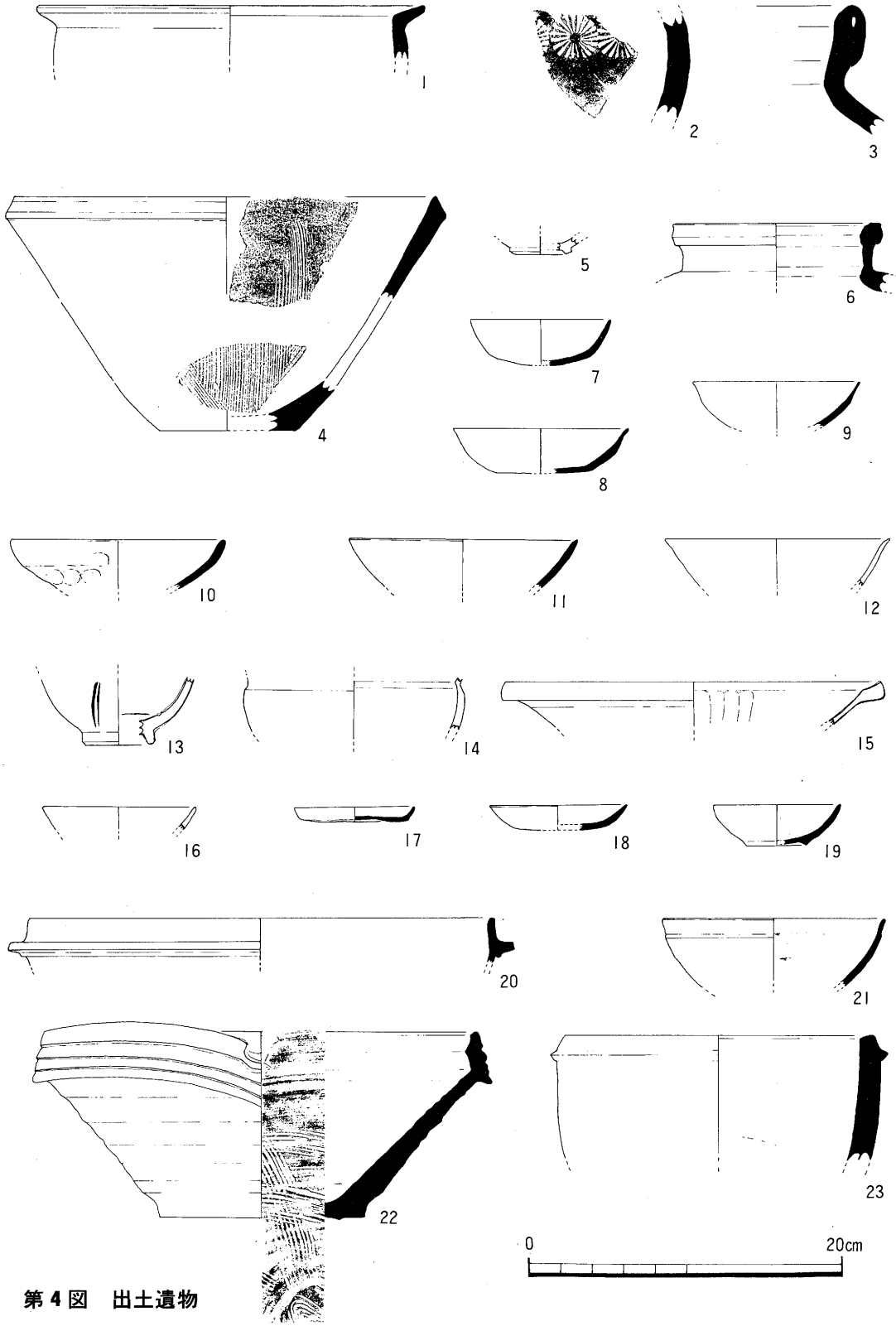
遺物 包含層からは石鍋（23）や瓦質の火鉢の破片（２）、さらには備前焼の摺鉢（22）が出土している。遺構では、Ｐ－17から中世の遺物（５－11）が多く出土している。その他、苑池からも中世の遺物が出土（12－21）するが、上層は近世の遺物が多く認められる。

3. ま と め

観音堂調査時は、中世の遺物の検出を見たが遺構は近世のみであった。今回、隣接地で鎌倉時代とみられる建物と苑池を検出できたことは大きな成果といえる。ただ、調査区の制約から全体の規模については明かにできず、将来の課題といえる。


客土
820.4m
近世包含層
苑池埋土
苑池
P－4
P－5
P7
建物1
P15
P14
P－11
P13
P15
P17
P1
建物2
0
4m

第3図　遺構全体図

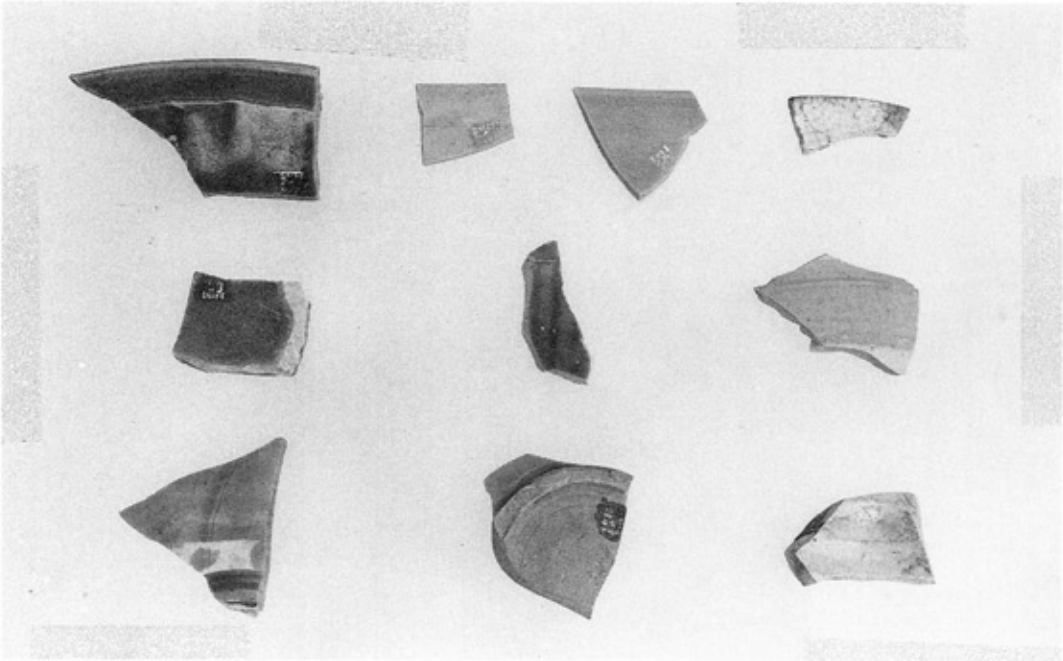


第4図　出土遺物

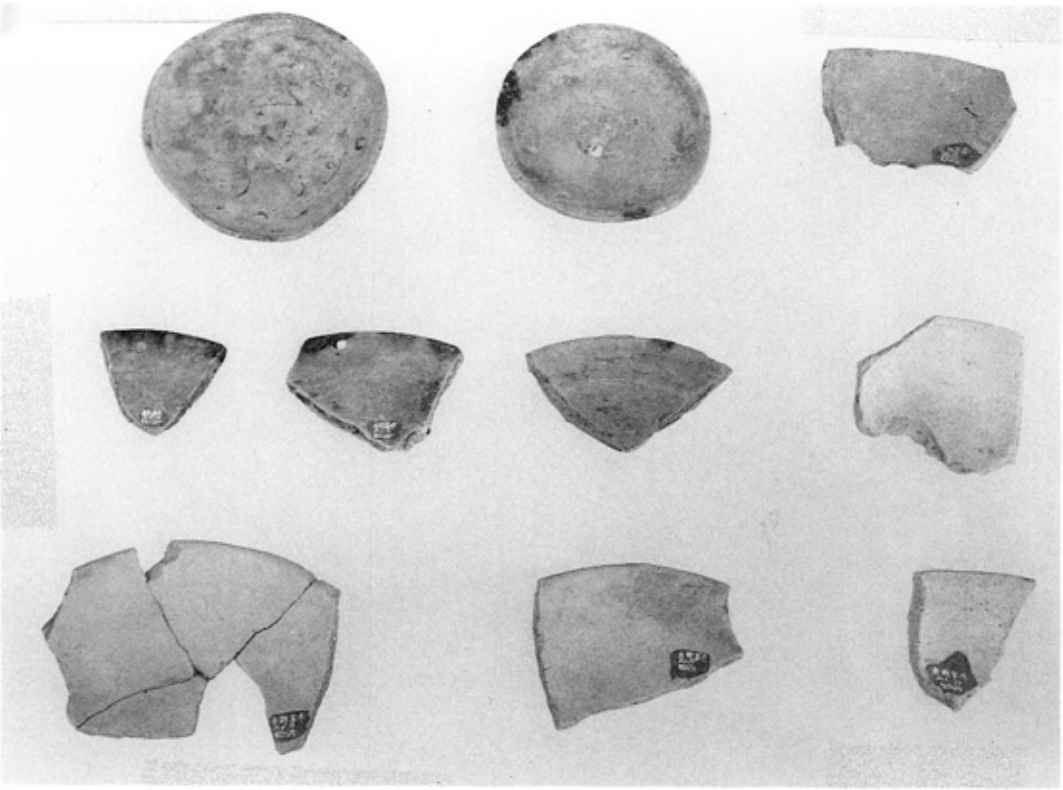
図版 1

調査区全景

苑池遺構



出土陶磁器類



出土土師器類

平成５年３月31日　印刷
平成５年３月31日　発行

金剛峯寺遺跡調査概報

編集
発行　(財)和歌山県文化財センター

印刷　合資会社 山 添 印 刷 店